

# きょうだいの日

第11回  
～  
第15回

10

活動を始めて5年が経ち、「きょうだいの日」も10回を超えました。お世話になった中央青年センターがなくなり、第12回からは会場を探して転々とするようになりました。よいところをみつけてもみつけても、次の年にはなくなってしまうことが続き…。だけど、たくさんの人が「きょうだいの日」が続くように、がんばっているきょうだいさんが安心しておもしろい場所がなくならないようにと、活動を守ってくれました。

シブレンジャーやほいかーをしてくれるボランティアさんとのつきあひも長くなり、みんなでひとつのイベントを作り上げる楽しさも大きくなりました。シブレンジャー登場時の小ネタも必ず入るようになって、日々のお笑い番組のチェックが欠かせないシブレッドの「スベリ芸」も定番になりました。

この頃から、活動を認めて、応援していただくことが増えました。

2008年には産経新聞厚生文化事業団さまから「産経市民の社会福祉賞」をいただきました。

初めての表彰式。大切なきょうだいさんたちと、仲間たちと、みんな一緒にごほうびをもらったようで、本当にうれしく感激しました。「きょうだいの日」でも、いただいた表彰状をきょうだいさんたちに見せて、「みんなががんばっているのを認めて、すごいねって応援してくれてるんだよ」と伝えました。子どもたち、ちょっとびっくりして、照れて、誇らしい笑顔を見せてくれました。

2010年からは、タケダ・ウェルビーイング・プログラムの助成をいただいて、いつもの「きょうだいの日」に加えて「中学生からのきょうだいの日」を開いたり、「きょうだいさんのための本」や活動を紹介するリーフレットをつくったりと、活動がぐっと広がりました。

2013年度は株式会社ラッシュジャパンさまのチャリティプログラムのおかげで安心して「きょうだいの日」を続けることができています。たくさんの人の、きょうだいさんのがんばりを知り、応援して下さるあたたかなお気持ち、しっかりきょうだいさんたちに伝えていきたいです。

初代シブグリーンは今では大阪にはいないので、「きょうだいの日」には一緒にあそぶことはできません。でも、いつも心はみんなと一緒に！「きょうだいの日」を盛り上げたいと思ってくれる気持ちも変わらず、いろんなすてきなものをみつけたり、作ったりして、送ってくれます。

いつも集合写真の時に後ろに並んでいる「SHIBUTANE」の風船も、最初にシブグリーンが送ってくれて、割れた文字を他のレンジャーさんが買い足してくれたものなのでした。

ありがとう  
シブグリーン



## おもいがけない ごほうび

この時期から「中学生からのきょうだいの日」がはじまりました。参加者の人でもよいから細く長く続けていこうと最初から決めていた企画だったのでのんびりとかまえていたのですが、何度かチラシを送った頃、6年ぶりのきょうだいさんからお手紙が届きました。

手紙には、「6年前『きょうだいの日』に参加した時、救ってもらえたっ感じてました。また感謝の気持ちを伝えに行きます。」と書いてあり、感涙。6年前、わけもわからず無我夢中で渡したものがこんなに大きくなってかえってくるなんて、まったく想像もつかなかったことで、本当に夢のようだと思いました。

長く続けるとこんな奇跡みたいなことが起こります。いつかゆっくり大人になったきょうだいさんとお話できたりしたらすてきな一歩だと思います。



## すばらしきシブレンジャーさんたち

しぶたね自慢のシブレンジャーさんたち。病気の子のきょうだいさんに寄り添いたい気持ち、一緒にあそびたい気持ちをいっぱいあたたためて、いつも「きょうだいの日」に出動してくれています。

シブレンジャーはいつでもきょうだいさんの頼もしい味方です。

例えば、親御さんがちょっと部屋を出て行く時、「あっ、初めて来たきょうだいさんはちょっと不安かな、声かけようかな」と思っていると、すでにレンジャーさんが「お母さんすぐ戻ってくるから一緒にあそんでようね」と声をかけてくれています。風船サッカーをする時、「あっ、机と椅子を集めているところがちょっと危ないからレンジャーさんに立っておいてもらおうかな」と思っていると、すでに数人のレンジャーさんが立ってくれています。レンジャーさんたち自身も同じことを話してくれることがよくあります。自分が「あっ」と思った時は他のレンジャーさんが動いてくれているんです。と、「きょうだいの日」の会場にいる大人がすべてきょうだいさんのことを大切に守っているんだなあと思いがたくなります。

また別の回の「きょうだいの日」では、シブレッドが打合せもなしにレンジャーさんへのアンケートを始め、「今日みんな（きょうだいさんたち）が来てくれて嬉しかった人、手を挙げて！」と言ったところ、すぐにレンジャーさんが全員とびきりの笑顔で大きく手を挙げてくれて嬉しかったのだと話していました。

「きょうだいの日」に来てくれたきょうだいさんが、「きょうだいの日」は自分を守ってくれる大人がいるところ」と話してくれたことがあるそうです。きょうだいさんたちへの愛情を、いつでも全力で伝えてくれるシブレンジャーと、その気持ちをしっかり受け止めてくれるきょうだいさんたち。感謝の気持ちでいっぱいです。

## ちょっぴり 青空きょうだいの日

第11回は、最後の中央青年センターでの「きょうだいの日」でした。中青には、すぐ隣に大きな原っぱがあります。せっかくなので、みんなであそびに行っておにぎりを食べてあそぼう！と、初めての青空きょうだいの日をすることにしました。

おにぎりはコンビニのおにぎりですが…親御さんに包みを開けてもらって、きょうだいさんに渡してもらいました。「自分でできるのに」「むいてもらうの久しぶりー」笑いながらちょっとだけ嬉しさもあり。外で食べるおにぎりは楽しくておいしかった！

この日はちょうど「産経市民の社会福祉賞」の表彰状を披露する予定だったので、親御さんからきょうだいさんにも、きょうだいさんのよいところ、可愛いところを称えて表彰していただくプログラムをおにぎりのあとに入れました。

「親御さんが書き込む間、目を閉じていてねー」と言うと、「どうせ書くことないんやろ？」と言いながら指の間からのぞくきょうだいさん、親御さんが書いてくれた表彰状をとっても嬉しそうに受け取るきょうだいさん、みんな本当に可愛くて、空は青くて、春の日差しがぼかぼか気持ちよくて、その光景はしあわせそのもののように思いました。

授賞式の後は、水風船をつかってグループジャグリング。「こわい！」「割れた！」ときゃーきゃー盛り上がり、最後はみんなでせーので水風船を投げて終了しました。

おにぎり1個だけ当たりがついてました。賞品は「うめレッド」バッジ！



水風船投げの楽しかった！